

試験種類 (どちらかに○をつけてください)	科 目	学 部	学 科	専攻・コース
公募制・卒業生子女	小論文	国際学部	国際学科	—
受験番号	氏 名			採 点

次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

- 問 1. この文章に書かれたアイスランドの女性がおかれた状況について、解答用紙に250字以内でまとめなさい。
- 問 2. この文章末尾の下線が付された文について、あなたはアイスランドの事例から日本をどのように見つめ直し、またその事例を参考にできると考えるか。具体的な例を挙げながら、解答用紙に500字以内で述べなさい。

小さな蛙^{かわず}ならば井戸の外の世界に跳びはねることもできるが、なまじからだがかいと、つかえて出られない——。何年も前のある会合で、日本をよく知る外国の知識人が日本停滞の理由を、そんなたとえで説明していたのを思い出す。

人口減、円安、国内総生産 4 位。縮みゆく日本の前途が案じられる時代にこそ、「小さいこと」の利点に目を向けてみてはどうだろう。たとえば北欧の島国に思いをはせながら。

昨年10月24日。「異変」は朝からあった。テレビではいつもの女性キャスターではなく男性スタッフがぎこちなくニュースを読んでいた。学校や銀行、店舗は軒並み休みになった。かろうじて開いていたカフェに女性従業員の姿はなかった。

人口37万のアイスランドで決行された「女性のスト」。首相をはじめ約10万人の女性がその日、仕事や家事、育児から離脱した。

首都レイキャビクの高校に留学中の A さん（17）は、何万人もの女性たちが広場を埋め尽くす光景に息をのんだ。プラカードには「これが平等なのか?」「きょうの晩ごはんはなに?」の文字。

言わずと知れた世界で最もジェンダー平等が進んだ国である。父親の育児休暇取得率は約 9 割。議員、閣僚のほぼ半数が女性だ。だが女性たちは満足していなかった。収入格差やたびこる性暴力、献立を考えたり子供の世話をしたり、責任がなお女性ばかりにのしかかる現実を。

A さんは多くの級友が参加した集会で実感した。「日本では『どうせ自分だけ叫んでも』とあきらめがちだけど、ここでは『自分の声で社会が変わる』とみな信じている」

昔からアイスランドが先進的だったわけではない——。グズルン・アウグストドッティルさん（77）は力説する。「1970年ごろは女性の所得は男性の 6 割以下。女性政治家も数えるほどしかいなかった」

グズルンさんは活動家仲間と「女性の休日」と名付けたストを75年10月24日に呼びかけ、全国の女性の 9 割が参加した。彼女たちが上げた声が社会を変えた。格差解消を促す新法制定、5 年後には世界初の民選の女性大統領誕生へと道を開いた。

「メールも SNS もなかった時代ですよ。でも小さな国で、お互いが知り合いのようなもの。理念を分かち合うのは難しくなかった」

試験種類 (どちらかに○をつけてください)	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
公募制・卒業生子女	小論文	国際学部	国際学科	—	
受験番号	氏 名			採 点	

この国に長年暮らす牧師の藤間寿紀さん（65）は「小さいことが民主主義を強靱^{きょうじん}にしている」と考える。カフェで政治家と隣り合わせるのは日常茶飯事。閣僚と市民が政治談議に花を咲かせる光景も珍しくない。

アイスランドが輝くのはジェンダー平等や民主主義だけではない。義肢装具製造の最大手オズール社など世界展開するビジネス、活躍するアーティストも少なくない。

「そうした存在が身近にいたので『自分も』という意識になる」と元駐アイスランド大使の北川靖彦さん（66）。「利害関係者が少なく、物事に先駆的に取り組める」とも。

逆に閉鎖的なムラ社会の恐れはないのか。「08年の金融危機では少数の男性が銀行経営を牛耳っていた弊害が浮き彫りになり、企業役員などの一定比率を男女に割り当てて多様性を反映させるクオータ制につながりました」。ヨハネソン駐日大使からはそんな答えが返ってきた。

歩んだ歴史も地政学的条件も異なる国にならうのは難しい。でも自身を見つめ直す鏡にはなる。

（沢村互「『小さい』からこそ変わる社会」『朝日新聞』2024年2月11日朝刊、承認番号24-3054、無断転載禁止）

試験種類 (どちらかに○をつけてください)	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
公募制・卒業生子女	小論文	国際学部	国際学科	—	
受験番号	氏 名			採 点	

問 1

	◀100字
	◀200字
	◀250字

(25×10)

問 2

	◀100字
	◀200字
	◀300字
	◀400字
	◀500字

(25×20)